



平成30年 9月5日  
旭川地区ミニバスケットボール連盟 技術委員長  
中 川 明

## 第42回旭川地区ミニバスケットボール夏期大会 総評

本大会では、選手権の直前と言うこともあり、強い気持ちがプレーに表れていたように感じます。ドリブル技術やシュート技術などのファンダメンタルの向上が見られ、各チームでの練習の成果が発揮されていたのではないのでしょうか。そこで、選手権に向けてさらにレベルアップできるよう、以下二点について述べさせていただきます。

### 【ムービングレシーブ】

ドリブル技術が向上してきた分、ドリブルに頼ったプレーも多く見られたように思います。動きが止まっている状態（ディフェンスと正対している状態）からの1on1、すでにドリブルが始まっている状態からの1on1では、ボールマンディフェンスも守りやすく、2線目や3線目もヘルプに出やすくなってしまう。今大会では、1on1でしっかり守られるケース、ヘルプにつぶされるケース、またドリブルではないものの、パス回しの段階で2線目のディナイにスティールされるケースが見られました。

ドリブルを活かすためには、ボールミートをしてディフェンスをずらすことが重要です。止まった状態でボールを受けて、1on1をドリブルから始めるのではなく、ムービング（動きながら）でディフェンスをずらし、有利な状況をつくって勝負することが、オフense力の向上につながります。

### 【予測に基づくオフボールの動き】

チームオフenseで確実に得点を重ねていくためには、オフボールの動きはとても重要な要素となります。【ムービングレシーブ】の項にも記した通り、オフボールのプレイヤーが止まっていると、そのディフェンスはボールを簡単に捉えることができるので、容易にヘルプに出ることができ、守りやすくなってしまう。

自分がどこに動けばボールをもらって勝負できるのか、また自分がボールをもらえなくても、どう動けばどこのスペースが空き、どのプレイヤーを活かすことができるのか、自分または味方が何をしようとしていて、次にどんなプレーが起こるのか、その時どう動くべきか。一人ひとりが動きに意図をもち、予測に基づいてプレーをすること、そしてチームが同じイメージを共有することによって、チームのオフense力が向上します。

選手権大会まで残り2か月を切りました。6年生にとっては全道大会出場を賭けた最後のチャンスとなります。悔いが残らないよう、残りの期間を大事に過ごしてほしいと思います。選手権大会でも素晴らしいプレーがたくさん見られることを期待しています。